

悠久の歴史と偉人の街

大村が生んだ偉人

福祉と教育の先駆者



石井 筆子

衆議院議長を務めた



楠本 正隆

三十七士の剣の達人



渡辺 昇

明治維新達成に活躍



渡辺 清

大村の歴史は古く、黒丸遺跡や富の原遺跡に見られるように、太古から人々の生活が営まれてきました。

中世になると、大村氏が彼杵郡を中心に活動し、大村に城下町を築きます。戦国時代の領主大村純忠は日本初のキリシタン大名となり、キリスト教の布教や南蛮貿易を進めます。純忠は、領地の長崎を貿易港として開港し、後の天領長崎の基礎を築き、初の公式ヨーロッパ訪問団である天正遣欧少年使節をローマへ派遣するなど、歴史に残る偉業を成しました。

江戸時代、幕藩体制のもと、大村氏が藩主となり、大村藩2万7千石の城下町として栄えます。海外との窓口であった長崎と各地を結んだ長崎街道が通り、宿場も賑わいました。郡崩れなどのキリシタン禁教問題などもありましたが、改易転封もなく大村藩は明治まで続きました。

幕末には、渡辺清・昇兄弟や楠本正隆らが、各藩の志士と連携を強め、早くから勤王を掲げ、新政府側として薩

摩藩や長州藩と協力し、倒幕に活躍します。大村藩が薩摩・長州・土佐に次ぐ3万石の褒美を賜ったことは、その貢献度の高さを表しています。

明治以後は、陸軍や海軍航空隊が置かれ、都市の整備が進み、海軍航空廠の設置による人口増などから昭和17年に大村市が誕生しました。



にぎわう幕末の大村宿の様子



大村藩勤王同盟三十七士の碑



天正遣欧少年使節顕彰之像